

最優秀賞

日揮社会福祉財団ふれあい賞

僕の弟、あゆちゃん

海老名市立社家小学校

四年 林 蒼 翔

僕の弟はしゃべるのが下手で、二年生なのに数もひらがなもわからない。やっと僕の名前が言えるようになったが、言いたいことはなかなか言えない。僕の言うことも伝わらないことが多く、急に怒って「お兄ちゃんごめんなさいする」と言い始める。何で怒っているのか、あやまりたいのか、それもわからないから面倒でたまらない。だけど無視すると、お母さんに僕がしかられるから、それもまた面倒で僕があやまる。なんでいつも「僕が」って思うことがたくさんある。僕だって勉強をやらずにすべり台で遊んでいたし、簡単な宿題をしてほめられたい。僕はバスケットに水泳、ダンスといっぱい習い事をしてがんばっているのにほめられない。「あゆちゃんだけずるい」と思っていた。

でも僕は気づいた。弟はしゃべるのも伝えるのも下手だから、ただ言えないだけで僕と同じように「お兄ちゃんずるい」と思っているのかもしれない。バスケのルールがりがりかきできれば、楽しいからやるかもしれない。ダンスをかつこよく踊ればモテると思いやるかもしれない。僕は僕の考えで弟のことを決めつけていた。

これからは弟が何を思い、伝えたいのかを観察することにする。弟の好きなことや、得意なことがわかるお兄ちゃんになりたい。そして弟のことをりかいしてもらえ居場所をつくりたい。僕の友達も弟がいてもバカにしたり、いやなことを言う人はいない。急に怒ってさけんでも、誰もうるさいとか変だと言わずに遊んでくれる。そのままの弟を受け入れてくれる。「あゆちゃん」とたくさんの時間を一緒にすごすことで、どこにでもいる自然であたり前の姿になっっている。これから先、あたり前の存在で続くように僕は弟と付き合っていこうと思う。